

別表1 点検方法と内容（ただし、構造等により該当しない場合は除く。）

点検方法	点検内容
目視診断	器具の外観・形状を見て、その劣化状態を診断する。
触手診断	器具を素手で触ることにより、その劣化状態を診断する。
聴音診断	器具の可動部を動かし、発生する音、がたつきの状態の有無を判断し、劣化状態を診断する。
打音診断	器具を点検ハンマーなどで軽打し、異音の有無を判断し、その劣化状態、亀裂、接合部の緩みなどを診断する。
揺動診断	器具本体を揺り動かし、または試用し、本来は固定状態にあるべき部位の振幅、異音、がたつき等を判断し、劣化状態を診断する。
計測	器具の各部を各種計測器具 ^{※3} 及びセーフティゲージ ^{※4} により計測し、基準値の適否を判断する。

※3 計測器具：メジャー、ノギス、ピンボール、スタッフ等の主として長さを計測する器具

※4 セーフティゲージ：頭部挟み込み、指挟み込み等を計測するテンプレート

別表2 劣化診断点検項目（ただし、構造等により該当しない場合は除く。）

点検項目	点検方法
構造部材	目視、触診により、器具の破損、腐食の有無等を確認し、構造部材の劣化を診断する。 支柱部等の地際に発錆、腐朽のある場合、金属性部材は点検ハンマーによる打診を行うこと。 木製部材の腐朽を確認した場合は、貫入試験を行うこと。 また、揺動診断によりぐらつきの有無を確認する。
消耗部材	目視、触診、必要に応じて聴診、計測により、消耗部材の劣化を診断する。
塗装	塗装仕上げ部分について、目視、触診により、塗装剥離、発錆、表層の凹凸状態を診断する。

別表3 基準診断点検項目（ただし、構造等により該当しない場合は除く。）

点検項目	点検方法
安全領域	各器具毎に設定された、安全な使用に必要とされる空間について、計測により判断する。
開口部	開口部に対して、頭部、指等の挟み込み防止に関わる基準値の適否を、計測により判断する。
絡まり・引っ掛かり	絡まり、引っ掛り、突起物等の危険箇所について点検を行う。
各部基準値	各器具毎に設定された、安全な使用に必要とされる各部の寸法、形状等について、計測により判断する。